

本号のテーマ：「一つの授業に賭ける」

昭和 50 年代、教師になったとき、私が最初に赴任したのは飯田高校でした。当時も、おそらく今もそうでしょうが、飯田・下伊那地域では、教科毎の中学校と高校との交流が盛んでした。一年交替で、当番校を決め、中学校と高校の授業を見合ったものでした。

授業を見た後は、研究会、懇親会を行いました。

当時、高校では個々の授業に対する研究会を行うことを避けていました。高校が当番の時は、授業について触れないということで研究会を行いました。中学校の先生たちは、授業のことに触れたがりましたが、高校の司会者が巧妙に授業のことは避けて通り、「視聴覚教材をどのように扱うか」というような一般論の議論で押し通しました。

中学校が当番の時には、当然、授業についての研究会が行われました。20 ページぐらいの資料が用意され、丁寧な準備がなされてきたことをうかがわせました。「対象児」「抽出児」全盛の時代で、該当の児童についての資料もしっかり入っていました。中学校の校長先生や教頭先生も研究会に出席し、必ず厳しい批判の意見や感想が出されました。新米社会科教師の私は、あんなすばらしい授業なのに、なんでこんなに厳しいことを言うのだろうと思ったものでした。

授業の目的とプロセスのずれ、発問の工夫の不足、対象児の扱いのまずさなど、厳しい意見は、あらゆることに及びました。大変驚いたのは、手を挙げての発言の取り上げ方は良かったが、生徒の「つぶやき」、授業展開のかなめとなるようなつぶやきを取り上げなかったという指摘がなされたときでした。

現在では、「対象児」ということばは使われなくなり、20 ページもの学習指導案も見られなくなりました。しかし、中学校の先生たちの、一つの授業にかける意気込みや厳しさは、今でも私の心に鮮明に残っており、大切なもののように思われます。

『教育委員会の動きなど』

1 佐久市ジュニアリーダー研修始業式

6 月 17 日（土）、野沢会館ホールにおいて、佐久市ジュニアリーダー研修の始業式が行われました。研修生 31 名と関係者・保護者が出席しました。糊澤教育長と佐藤山（さとやま）会長から挨拶があり、教育長は「百聞は一見に如かずとは言うけれど、見ることで終わってしまうものがある。実際におこなってみることによって人はいろいろな発見をすることができる。そういう研修が盛りだくさんに用意されている。

疑似体験ではなく、実体験をすることによって成長してほしい」との、お話がありました。

研修生代表 4 人から決意表明が行われ、人との交流、体験活動への期待、積極性を身につけること、友だちとの協力などが語られました。岩村田小6年 飯島雪姫（ゆき）さんは、「①他の学校の人とも仲良くなりたい」「②積極的に活動したい」という二つの目標を掲げ、研修を通して、人とのかわり方を学びたい、という決意を述べました。



これからスタートする 15 回の研修において、研修生 31 名は、キャンプ、カヌー、そば打ち、千曲川河川敷ゴミ拾い、商業体験、国会見学、乗馬体験などなど、多くのことがらを実際に経験していきます。

2 岩村田小学校屋外プール引渡し式

岩村田小学校に、新しいプールが完成しました。6月27日、児童代表・関係者約50名が出席し、佐久市から学校への引渡し式が行われました。

最新の設備が施された25メートル7コースのプールです。床にはゴムチップが一面に敷かれ、足にけがをしたり、足が焼け付いたりしないようになっています。また、



プールサイドには、細長い日よけのひさしが設けられています。ひさしの下にベンチが設けられ、コースロープが収納できるようになっています。

児童会長の菊池優介君が、「ピカピカのプールで、安全に気を付けて充実した水泳をしたい」とあいさつしました。水泳シーズンが始まるちょうどよい時期に、新しいプールが完成しました。子どもたちが思う存分活用することを期待いたします。

3 学校訪問から

- (1) 小学一年生を授業に集中させることは、結構難しいことなんだ、ということを感じます。家庭の教育力の低下により、我慢する場面では我慢する、という姿勢が養われていないということがあります。

でも、いったん、授業に集中する姿勢ができると、すごい集中力を発揮するということもわかりました。姿勢よく大きな声で朗読します。先生の質問に、わかっていなくても手を挙げてしまうくらい、みんなが手を挙げて、競争で答えようとします。

やっぱり、学校って楽しいところなんだな、学んで楽しいことなんだなということを、改めて感じます。

- (2) 学級の状態が不安定になるということが、市内の学校においてもたまに見られます。小学校では、低学年と高学年の両方で起こりえます。一年生が落ち着かないというのは、まだ、学校生活に慣れないためであると思われます。ある小学校を訪問した時、一年生、二年生、三年生と、徐々に学習に集中できるようになり、高学年では、全く落ち着いてしっかり学んでいる様子が、手に取るようにわかりました。一年生を育てることの大変さがよくわかりました。

昨年度、高学年の児童が落ち着かなくなり、担任に罵声を浴びせたり、授業中勝手な行動をするようになったりした小学校では、校長先生が、学びの場の回復の様子を、赤裸々に語ってくれました。お互い、ヘルプを出そう、話題を共通化し、みんなでやる、チームでやるという気持ちでいきましょう、担任だけで背負わないで、手はずを整えてやりましょう、必要な場合には第三者を入れましょう、ということに取り組んでいるというお話でした。先生たちが自信を取り戻し、笑顔が戻り、全校を挙げて明るく楽しい学校、安心して学べる学校づくりに邁進しているとのことでした。まだ、乱れた時の片鱗が出てくることがあるが、ほとんど落ち着いた状態になっているとのことでした。